

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：

保健管理センター

部局長名：

岩崎良章

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
学生への感染症教育の充実を目標として、入学時のオリエンテーション及び共通教養講義の教材の改訂、啓発資料の配布、海外派遣学生への感染症情報の提供、病院実習を受ける医療系学生への感染症対策を行う。	6② 52② 18①	入学時オリエンテーション、共通教養講義(岡山大学入門講座、健康スポーツ科学)において、教材及び資料を改訂して感染症教育を行うとともに、毎回、Moodleによる小テストを設けることにより、重要ポイントの確認とフィードバックを行った。 新型コロナウイルス感染拡大により、急遽、予定を変更してオンラインで行った授業科目にも、資料の掲載及び動画による説明、毎回の課題を設けて、授業の受講状況を把握しつつ、感染症教育を実施した。
②研究領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
外部資金の獲得状況の向上を目標に、科研費の応募に関する周知、獲得のための講演会等の受講の義務化、応募進捗状況の確認を行う。		科学研究費の応募に関して周知、情報提供を行い、科研費獲得に関する講演会は全員受講した。資格を有する教員全員が科学研究費に応募しており、1課題が継続中である。
③社会貢献(診療を含む)領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
大学周辺での受動喫煙や吸い殻の投棄をなくすことを目標に、安全衛生部と協働して、受動喫煙に関する啓発を行うとともに、大学周辺での喫煙対策を推進する。	18①	学生・教職員を対象にWeb視聴で実施した受動喫煙防止対策講習会において、大学周辺の禁煙区域化による受動喫煙対策を含めた喫煙防止、禁煙支援に関する啓発を行うとともに、全国大学保健管理研究集会以本学の受動喫煙の取組について報告した。 本学の地域貢献の取り組みと位置付けて、他の大学・専門学校の学生・教職員、近隣企業、教職員の家族、キャンパス内の業務従事者をも対象として、新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施した。
④管理運営領域		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1. より効率的な運営体制を目標に、業務運営や体制の見直しを行い、人員の削減の中での業務運営の適切な効率化を図る。 2. 設備において残された課題であるトイレの改修を行う。	18-1	1. 大学病院へ移行・配置された診療放射線技師ポストの代替で措置された診療放射線技師の派遣により、学生・教職員の定期健康診断における胸部X線撮影業務を支障なく行った。健康診断事後措置や日常の診療で必要な胸部X線撮影については、非常勤職員(診療放射線技師)を雇用して対応可能な体制を整えた。 また、退職した診療放射線技師が担っていた健康診断データの管理、処理、webによる結果通知及び健康診断予約システム管理の業務は、2名の保健師で担当する体制へと移行した。 2. 老朽化が進んだトイレの改修を行い、衛生環境の改善と利便性の向上が図られた。
⑤センター・機構等業務		
	目標に関連する 年度計画の番号	センター・機構等業務における目標の達成状況
1. 新型コロナウイルス感染拡大防止を目標として、関連する情報を更新して啓発を行うとともに、学生に対し、感染症に対する適切な指導を行う。 2. 各種健康診断等の予約に関する効率化と利用者の利便性の向上を目標に、予約システムの利用拡大を促進する。 3. 留学生・外国人研究者のセンター利用の利便性の向上を目標に、新規の掲示・指導書類等の多言語表記を進める。 4. メンタルヘルス対策の更なる強化を目標として、以下の取り組みを行う。 (1) ストレスチェックの更に円滑な実施を図るとともに、集団分析結果に基づく有効なメンタルヘルス対策を図る。 (2) 教職員のメンタルヘルス研修をこれまでよりも拡充する。 (3) 受入留学生及び外国人研究者が本邦において快適な生活を送ることが出来るよう、電話医療通訳サービス、精神保健福祉士(PSW)の有効利用による健康支援を行う。	18① 18-1	1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オリエンテーション、共通教養講義に加えて、大学及びセンター独自のウェブサイトにおいて感染防止に関する留意事項や啓発情報を掲載するとともに、その都度更新を行った。 コロナ禍でのメンタルヘルス対策として、学生・教職員向けのメンタルヘルスオンライン講習会を開催するとともに、保健管理センター及び学生向けウェブサイトに資料を掲載した。 新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を令和3年7月から10月にかけて実施し、学生・教職員の感染症対策に大きな成果を上げることができた。 2. 健康診断予約システムを在校生から新入生にも拡大して学生健康診断を実施した。新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種実施の際にも健康診断予約システムを活用し、本学構成員の健康(医療)面の支援及び感染症対策に役立てることができた。 3. センター内の新規の掲示・指導書類に英語表記を追加し、既存のものも含めて英語表記の追加を進めた。 4. メンタルヘルス対策として以下の取組を行った。 (1) ストレスチェックをMoodleの使用により円滑に実施し、統計学的に分析した集計データを独自の集団分析シートにまとめて提供することにより、各事業場責任者が統括する職場環境の理解を深め、環境改善に着手しやすくなった。 (2) 教職員のメンタルヘルス対策として、新任教職員対象のセルフケア研修、管理職員等対象のラインケア研修を、e-learningにより、年度を通じて計画的に実施している。 (3) 電話医療通訳サービスを用いた多言語対応を図るとともに、精神保健福祉士(PSW)の委託契約を継続して、受入留学生及び外国人研究者に対する支援体制の充実を図っている。